聚珍畫帖 上

16
Tanyu

21

薫松軒摹寫

聚珍畫帖

芝山館藏刻

聚珍畫譜序

畫家貴之粉本毎得古畫名圖模寫收之一經拙手畫法忽失粉本所以難得之名手粉本惟難狩野探幽爲手寫粉本世或傳之亦爲多於木唯松翁所貯藏尤多凡若干幀和漢諸名蹟皆縮入小幀爲一手帖秘不示人翁沒之後傳其翁子芝山公氏

Freer Gallery of Art
Washington, D.C.

人或就請摸寫其秘蔵之畫去既播
至寶之埋沒又恐手澤之消亡係爲度
石川翁加手摸寫入刻而出自作圖大
小若色淺深一依原本刻成乃序於
中々良々得原本照觀一筆無參差豈
兼影響云哉畫像小字識層探迹
爲之手記室廊彩字者保通廣貴
哉名氏有闕焉

旹
享和歳壬戌晩冬月十又六日
題於桂林舍之南軒
桂川中良

吾友芝山館のあるじ皇の
み國のいにしへより世の墨にかゝる異なるふでのさまを
いしよりあまねくつどへくさぐさのうへの
絵ごとなきまでそれか中より採出して下の
てつからうつしやまとのよ上手の
ゑをも縮て寫さしめ又巻として

其圖ハ五百く一つまりくだくさへさそう
ふるき筆の勢ひのあやしき
のどやかなるハ雲の山ノ霞の
たな引さまことにきそりうきいり
すゝ秋の野らの花すゝきれ
ミられたるさまかん似たるも是を

ことつ圖りくへかきそあかより
青きもまくかうしゝし
うつきる月ほをかへようかよ
さるせきハ絵日記なるもいふへき
めりしつそつうれしあくし
いくつつまゝあさうりのこ

見るくさらんもはてしなけれハ
木よりゐくなあし一つゝの
さとくみも三をまくおもひく
なるもおもしろきいさゝかしてかな
志るし さかんつかたきぬさハ
いへ寫を花人をはさくしり

おのれかゝる事一のさくきとかで
知れしハうたしくもこそは
つふかさい筆くりうつしは
いとおもかきめかやるはこ
たくさふいさ之酔るとく成
ゆれハなるのかしもいさを

しかくいふのみしつゝと

蕙窓行主人大浪志寺發

平 印

凡例

此帖ハ法印探幽齋鑒定ヲ請フモノアレハ盡ク自ラ圖寫セルモノナリ予カ大人鄭松翁幼ヨリ丹青ノ技ヲ好ミ老ニ至テ益不衰嘗テ同好ノ友及ヒ予ニ話テ云近世畫家者流多クハ自畫ヲ以畫譜トナシテ全ク古畫ヲ摸スルモノ少シ偶アルモ圖ノ大ナルヲ縮寫スルノミ故ニ畫狀ニ拘リテ其真ヲ失フモノナリ蓋此圖ヤ元来大ナルモノヲ法印自ラ通神ノ手ヲ以縮摹スルモノナレハ後人ミタリニ淡墨飛白着色ヲアヤ

マリ摸スルノタクヒニアラス巧画ノ士謹テコレヲ摹寫シ梓ニ上セハ法印ノ真蹟ヲ得ニ等フシテ此技ニ志ス人ノ規矩摸範タルヿヤ必矣ト云其言ニ服シタヽ命コレシタカハント欲スレトモ官務擾ヽ其隙ヲ得ス今年壬戌ノ春大人物故ス生前志不遂今ハタ何ヲカ云ハンヤ嘗テ聞夫孝ハ善ク人ノ志ヲ継善ク人ノ事ヲ述ルモノナリト喪ニ居テ荐リニ此事ヲ思ヒ友人石川大浪子ニハカリ摹寫ヲ請テ劂人ニ命シテ一編ノ帖トナシ世ニ公ニシテ以テ不朽ニ傳フ是イサヽカ先人ノ志ヲ繼ノミ

一小紙ニ寫スルモノハ圈ヲ以テ示ス紙端ニ及ヘルモノハ又圈ヲ以テ分ツ

一和漢ノ讃ハ其人ノ書ヲ摸スルニアラス其筆意ニ倣テ法印ノ書スルモノナリ故ニ勝劣アレトモソレニ拘ラス摹スルナリ

一畫ノ旁ニ画者ノ姓名ヲ小書セルウチニ偶ニ顛倒スルモノアレトモ其マヽニ摸スルナリ

一□如此ヲ以テ示スハ蔵家ノ姓名ユヘ姑クコレヲ闕

一印章朱墨ノ異ナルアリ着色ニ至テモ法
印ノ摹ニ從テ潤色ヲ加ヘス

享和壬戌季冬

鄰江芝公服識

聚珍畫帖上卷目次

福祿壽三星圖　白鷺圖
達磨圖　布袋圖
旭日五禽圖　耕作圖一
二　三
洗象圖　蘆雁圖
王昭君圖　天帝圖
大黑像　栗鼠圖
渡唐天神影　梅雀圖
維摩像　白鶴圖

白衣観音像　鶏圖
黄鳥圖一　二
三世佛圖　墨菊圖
出山釋迦像　鍾馗像
鐵枴像　蝦蟆像
水汀白鷺圖　桃花折枝圖
關羽像　鴛鴦圖
流書竹圖　不動像
牡丹猫圖　鍾離權

羅績写

何謂普賢是名普賢嘉與文殊法出一塗或馭
獅象有何外物洗爾障得見真如物則有相
苦心空無與
吳興錢選舜舉畫并題

李龍眠也
字名伯時

伯時

同十月七日

世人唯知天満大自在天神之七字號而
未知有五之義名也居都率天以寶名好玄
於北千手之陀摩天其名更通於本地地藏
降北聖界寶孫道信於地文殊豪帝釋天
則別號通直本地大日現安樂寺以寶号
道眞於地十一面觀入佛鑒籌而傳信
衣馬寺持身以是何乃佛乃欲芸菩薩乃欲名示
甚名本名乎迹名乎宜哉
天満大自在天神

忠極史

同五月十七日白水[illegible]

寿

朱端

芸艸堂藏

霜臺晩節

稜々鐵面綉衣郎珍重
東籬晩節香指日霜臺
需雨露腰間應似此花
黄

秦藩永壽蒙齋爲
欽差巡按關西綉衣氏塗包
老老生寫題

寛文二二月かる
ミ子代ハ令ゑと
ヒきて

雪舟筆

洒々落々雅々容
々拮錦屏之秀氣
揖閬苑之仙風亦
能別真偽於眼底
定古今於五月中可
以徙見千之躍躍
老之麗之雅圭譽譽

足宛

雪舟写す

宋馬遠作